



NEWS RELEASE

2024.2.15

株式会社 CARTA COMMUNICATIONS

2023 年下期インターネット広告市場動向および、これからの 広告指標についての調査レポートを発表

～2023 年下期におけるインターネット広告市場は徐々に回復傾向～

株式会社 CARTA HOLDINGS のグループ会社である株式会社 CARTA COMMUNICATIONS（東京都港区、代表取締役社長：目黒 拓、以下「CCI」）は、2023 年 12 月、国内のデジタルマーケティング業界の関係者を対象に、2023 年下期インターネット広告市場動向および、これからの広告指標についての調査を実施しました。



本調査は、昨今のインターネット広告市場における具体的な変化を 2020 年 7 月から半期ごとに調査しているものです。国内のマーケターのアンケート回答結果と当社の運用型ディスプレイ広告出稿分析ツール（※1）「CCI 360 Programmatic Display Market Analytics」の

データをもとに、インターネット広告キャンペーン費用の推移等、該当期間におけるインターネット広告の出稿傾向をホワイトペーパーとしてまとめました。

ホワイトペーパーをご希望の方は、以下フォームよりお問い合わせください。

お問い合わせフォームは [こちら](https://www.cci.co.jp/form_cci360_8/)：

https://www.cci.co.jp/form_cci360_8/

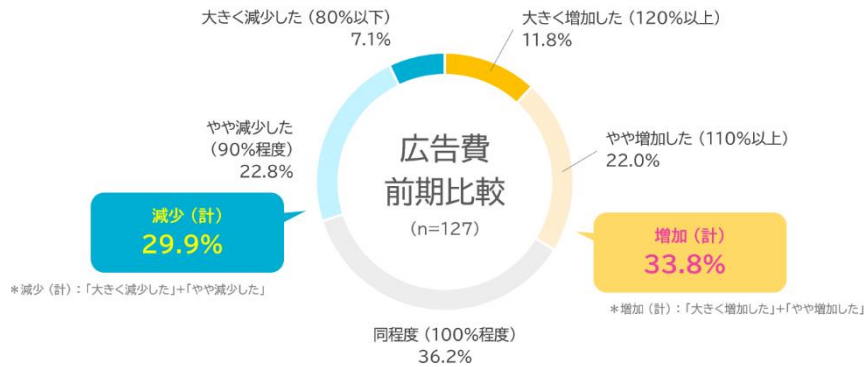
<2023 年下期インターネット広告市場動向の主なポイント>

インターネット広告費の増減

2023 年下期の広告費は、2023 年上期と比べ大きく増加したとの回答が 11.8%となっており、増加と減少を比べると増加が 3.9%上回る結果となった。

23年下期は増加した人が33.8%、減少した人を3.9%上回った

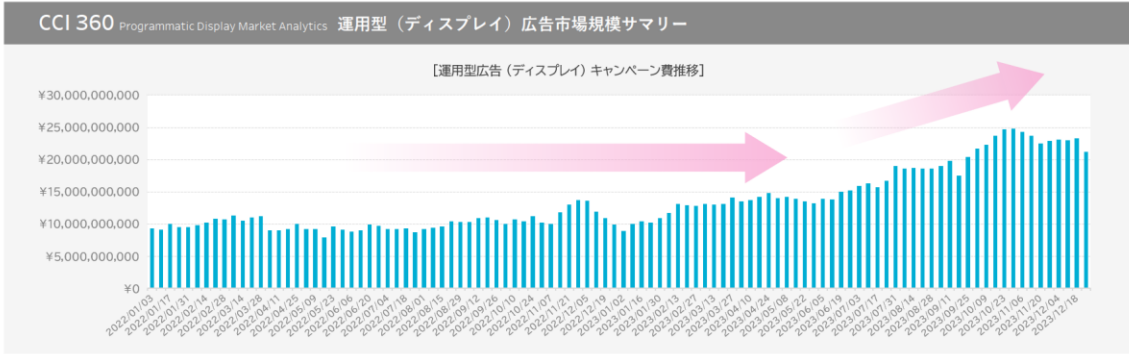
Q. 貴社もしくはご自身に関わるインターネット広告で、2023年上期(1月～6月)と2023年下期(7月～12月)を比較した際の広告費の増減の見通しについてお聞きます。



運用型ディスプレイ広告市場の状況

2023 年下期の運用型ディスプレイ広告におけるキャンペーン費用は急上昇。前年と比較すると倍増している。

23年のキャンペーン費用は、上期では緩やかに上向き、
下期に入ってから急上昇している



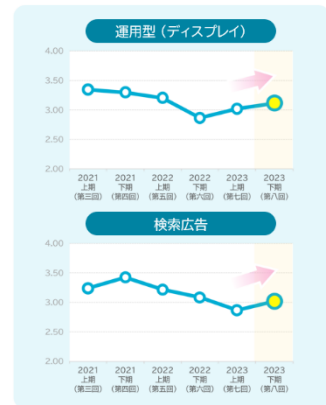
- ➡① 2022年はキャンペーン費用が緩やかに上昇していたが、2023年に入ってから下期に向けて急上昇。
- ➡② 下期全体でみるとキャンペーン費用は5,406億円。前年と比較して約194%の結果に。

インターネット広告取引手法別の市況感

取引手法別でみると、運用型（ディスプレイ）が前回調査に引き続きポイントアップ、さらに検索広告もポイントを上げています。運用型の需要は今後も高まっていく事が予想される。

前回調査と比較して

運用型 / 検索広告 がポイントUP
(ディスプレイ)


















※2020下期以降のアンケート結果より、取引別に実績状況を「大きく減少(80%以下)〜大きく増加(120%以上)」「取扱い無し」6項目に分けて分析。「取扱い無し」を除外した回答を5項目から指標を算出し、推移を作成。

2023 年通期での景況サマリー

前年と比較して大きく数値を伸ばした業種が多く、飲料・嗜好品は 200%を超えた。

※引用：CCI360

業種	2021年	2022年	2023年 (YoY)
エネルギー・素材・機械			152.6% 
ファッション・アクセサリ			110.1% 
飲料・嗜好品			206.0% 
化粧品・トイタリー			95.0% 
家庭用品			114.4% 

その他 全 20 業種についてはホワイトペーパーに記載

<これからの広告指標についての主なポイント>

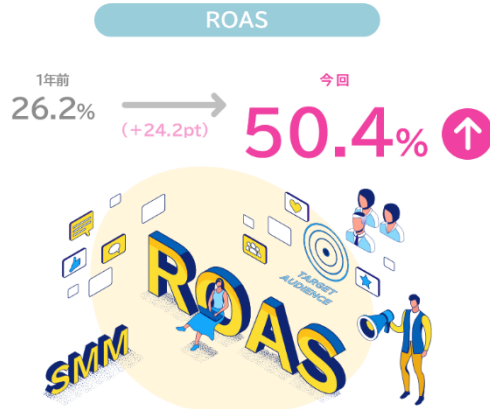
提供したい/求められている指標

マーケティングやキャンペーンの成果・効果・分析・レポートで提供したい指標について、2022 年上期から 3 期に渡りブランドリフトが上位に入っていたが、2023 年下期は ROAS のポイントが非常に高い結果となった。

“一年前”と比較して

ROASの上昇が約24ptと非常に高い

(Return On Advertising Spend/広告の費用対効果)



< 調査概要 >

タイトル： 第 8 回インターネット広告市場に関するアンケート

調査手法： メール配布によるアンケート調査

調査時期： 2023 年 12 月 4 日（月）～12 月 17 日（日）

対象者： 広告主、広告会社、媒体社、メディア、プラットフォーマー、テクノロジー・ソリューションベンダー、メディアレップなどインターネット広告市場に関係のある方

回答数： 127

(*1) < ツール概要 >

ツール名： CCI 360 Programmatic Display Market Analytics

ツール概要： CCI360 は、CCI のサプライパートナーからのデータを基に集計を行い、日本のディスプレイに限定した運用型広告の市場規模と、運用型広告（ディスプレイ）にキャンペーン予算を多く投下している広告主のキャンペーン費用の規模や推移を調査するツール。

会社名	株式会社 CARTA COMMUNICATIONS
本社所在地	東京都港区虎ノ門 2-6-1 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー36F
代表者	代表取締役社長 目黒 拓
株主	株式会社 CARTA HOLDINGS（株式会社電通グループ連結子会社）100%
事業内容	デジタルマーケティング事業

**本件に関する
お問合せ先**

株式会社 CARTA COMMUNICATIONS
経営戦略室
E-mail: cci360_info@cartahd.com

**報道関係者
お問合せ先**

株式会社 CARTA HOLDINGS 広報担当
<https://cartaholdings.co.jp/contact/>